

消防消第 193 号
平成 29 年 7 月 31 日

各都道府県消防防災主管部長
東京消防庁・各指定都市消防長 殿

消防庁消防・救急課長
(公 印 省 略)

糸魚川市大規模火災を踏まえた「木造の建築物が多い地域などの大規模な火災につながる危険性の高い地域」の指定要領等について（通知）

消防庁では、平成 28 年 12 月 22 日に発生した糸魚川市大規模火災を受け「糸魚川市大規模火災を踏まえた今後の消防のあり方に関する検討会の検討結果について」（平成 29 年 5 月 19 日付け消防消第 117 号）により、本火災を踏まえた基本的な考え方、各消防本部において早急に取り組むべき事項、今後取り組むべき主な事項等を示したところです。

それらのうち、木造の建築物が多い地域などの大規模な火災につながる危険性の高い地域の確認・指定及び当該地域の火災防ぎょ計画の策定について、既の実施している消防本部においては再確認・見直しを、また、実施していない消防本部においては、地域の確認・指定及び計画の策定を、今年度中に実施していただきますようお願いいたします。

各消防本部におかれましては、地域の実情を十分踏まえて行っていただくことが重要です。本通知は、その作業の参考としていただくため、下記のとおり要領をお示しするものです。

各都道府県消防防災主管部長におかれましては、貴都道府県内の市町村（消防の事務を処理する一部事務組合等を含む。）に対して周知するとともに、適切に助言していただきますようお願いいたします。

なお、本通知は、消防組織法（昭和 22 年法律第 226 号）第 37 条の規定に基づく助言として発出するものであることを申し添えます。

記

第 1 地域の確認・指定

別記 1 のとおり

第 2 火災防ぎょ計画（警防計画）の策定

別記 2 のとおり

【問合せ先】

消防庁消防・救急課 警防係

守谷、伊藤、馬場

電話 03-5253-7522

e-mail keibou@ml.soumu.go.jp

地域の確認・指定

市街地の不燃化が進んでいる一方で、木造・防火造建築物が密集している地域が多数存在している。このような地域で火災が発生した場合は隣接する建築物等への延焼の危険性が非常に高く、さらに、気象条件等の要因が重なれば、一気に大規模な市街地火災へと進展し、消防力を大きく超えてしまう危険性がある。

各消防本部において、火災予防、消火活動及び消防体制の充実強化に取り組むに当たっては、木造の建築物が多い地域などの大規模な火災につながる危険性が高い地域を把握し、指定しておくことが必要である。

第1 把握要領

1 消防活動の困難性を軸とした把握方法

地域の危険性を把握するには、各消防本部において、自らの管轄区域における市街地構造を分析することが必要である。

地勢、建築物の状況、アーケード商店街などの地域特性を十分踏まえるとともに、消防活動上のこれまでの知見を基に、消防活動の困難性を勘案し、危険性の高い地域を把握する。例えば、次に掲げる事項について勘案することが望ましい。

- (1) 地勢、道路狭隘等により消防車両の進入が困難な地域や包囲隊形が取れない地域
- (2) 水槽付消防ポンプ自動車の進入可能道路から地域の中心までが50m以上の地域
- (3) 中心部から140m以内において水利部署が困難な地域

2 危険性の定量的な把握方法

地域の実状に応じて、次に掲げる方法を活用できる場合は、積極的に活用する。

(1) 災害危険度判定調査結果等の活用

市町村によっては、都市整備関係部局において、市街地の災害危険度判定調査等により、木造の建築物が多い地区の延焼の危険性評価を実施している場合もある。その調査結果を積極的に活用することにより、地域の危険性を把握する。

(2) 延焼危険性による危険度評価

市街地における大規模火災の危険性を示す「延焼危険性」により危険度を評価する。

「延焼危険性」を表す指標には、地区の燃え広がりやすさを表す指標である住宅戸数密度（※1）や木防率（※2）、地区の燃え広がりにくさを表す指標である不燃領域率（※3）や延焼抵抗率（※4）があり、これらにより危険性の高い地域を把握することができる。

具体的には、住宅戸数密度が80戸/ha以上、かつ不燃領域率が40%未満（又は木防率2/3以上）であると延焼の危険性が著しいとされていることから、これを地域の指定に当たっての一つの判断材料とすることが考えられる。

住宅戸数密度、不燃領域率及び木防率等については市町村の都市整備関係部局において把握している場合があることから、関係部局と連携して把握すること。

※1 住宅戸数密度

地区内の住宅戸数を地区面積で除した密度。その地区の燃え広がりやすさを表す。

※2 木防率

地区の全棟数に占める木造建築物及び防火造建築物の棟数の割合を示す。都市計画基礎調査から得ることができる。

※3 不燃領域率

地区面積に対する不燃化面積の割合。地区内における一定規模以上の道路や公園等の空地面積と、地区内の全建築物の建築面積に対する耐火建築物等の建築面積の比率から算定される。

※4 延焼抵抗率

地区面積に対して、どの建築物から火災が発生しても延焼のおそれが高い区域の面積が占める割合。(建物密度が低いほど大きくなる。)

(3) 市街地火災延焼シミュレーションの活用

市街地火災延焼シミュレーションを活用し、予測される延焼面積(又は焼失面積)の大きさにより地域の危険性を把握する。

市街地火災延焼シミュレーションとして消防研究センターの開発したプログラムを活用することが可能であり、当該プログラムの入手方法や操作方法等について消防研究センターホームページにおいて周知する予定である。

3 地域の単位

町丁目、250mメッシュ単位など、ある一定以上の面積以上の地域を指定することが望ましい。最小面積として、1000 m²、5000 m²、1 ha等と設定している事例もあり、署所の配置、出動計画等を勘案し、消防本部及び地域の実情に応じて設定することが望ましい。

第2 指定要領

- 1 各消防本部において上記第1・1のように消防活動の困難性を勘案して危険性を把握している地域について、上記第1・2に示すような定量的な指標と組み合わせで指定することが望ましい。
- 2 上記第1・2・(2)において、延焼の危険性が著しく高いとされた地域を指定している事例のほか、下記第3にあるような独自の指標や複合的な指標により指定している事例がある。

各消防本部については、実情に応じた指定要領を選択し、指定すること。

第3 先進事例

地域の危険性を把握して地域を指定している事例を紹介する。本事例は全消防本部に対して平成29年2月8日から4月3日まで実施した「強風下における火災等への対応状況についてのアンケート調査」により回答を得た中から抽出した代表的なものである。

各消防本部においては、自らの消防力及び実情に応じた方法を選択して指定することが望ましい。

1 消防活動の困難性を勘案して把握・指定している事例

(1) 箱根町消防本部

幅員 6 m以上の道路、空地、河川等に囲まれた地域を単位として、主要な進入路が狭隘又は急坂のため進入困難な地域で木造建築物が密集し包囲隊形のとれない地域を指定している。

(2) 長崎市消防局

次の区域を指定している。

- ・ 高台地で木造建築物が密集し、道路状況が消防自動車の進入不可能又は進入困難な区域
- ・ 署所から遠隔地で木造建築物が密集し、消防隊集結に相当な時間を要する区域
- ・ 飲食店が密集し、出火危険が大きくかつ人命危険な区域

2 定量的な指標も勘案して把握・指定している事例

次に掲げるほぼ全ての消防本部が危険性の高い地域を、消防活動の困難性を勘案するとともに、定量的に把握して指定している。

(1) 岡崎市消防本部

岡崎市災害危険度判定調査（平成 27 年 3 月岡崎市都市整備部都市計画課）を基に、危険性の高い区域を指定している。

(2) 佐賀広域消防局

一の街区において木防建ぺい率が 60%以上の地域を危険性の高い地域として指定している。

(3) 宗像地区消防本部

最小区画面積が 1000 m²以上又はその区画が連続する区域で、その区画の総面積に占める木造建築物の建築面積の割合が 60%以上の地域を木造密集地域として活動計画を策定している。

(4) 尼崎市消防局

次に掲げる地域のうち、筒先による包囲隊形が不可能で、水利部署した車両が火点直近（ホース 10 本以内）まで進入できない地域を指定している。

- ・ 木防率が約 70%以上の地域（都市整備局が公表している重点密集地域、緊急密集地域、密集市街地）
- ・ 消防車両の進入が困難な道路狭隘地域
- ・ 鉄道、河川、高架道路、周辺他市等に隣接している一方偏集地域

(5) 東京消防庁

東京都の地震時における地域別延焼危険度測定では、延焼シミュレーション（東消式）により町丁目内で 1 件の建物火災が発生し消火活動が行われない場合に、6 時間後に平均でどの程度燃え広がるか測定し、これを町丁目ごとに延焼（焼失）危険度のランクとして評価している。

このうち、危険度ランク 6 以上の地域について特に警防計画を策定している。

【危険度ランク区分】

| ランク | 延焼面積又は焼失面積 |
|-----|---|
| 9 | 150,000 m ² 以上 |
| 8 | 100,000 m ² 以上 150,000 m ² 未満 |
| 7 | 60,000 m ² 以上 100,000 m ² 未満 |
| 6 | 30,000 m ² 以上 60,000 m ² 未満 |
| 5 | 15,000 m ² 以上 30,000 m ² 未満 |
| 4 | 5,000 m ² 以上 15,000 m ² 未満 |
| 3 | 1,500 m ² 以上 5,000 m ² 未満 |
| 2 | 300 m ² 以上 1,500 m ² 未満 |
| 1 | 1 m ² 以上 300 m ² 未満 |
| 0 | 0 m ² |

別記 2

火災防ぎょ計画（警防計画）の策定

木造の建築物が多い地域などの大規模な火災につながる危険性が高い地域として指定された地域（以下「指定地域」という。）は

- ・道路狭隘で消防車両の進入が困難
- ・使用できる消防水利が限られ、消火用水が不足する危険性がある

などの特徴があり、消防活動は容易ではない。そのため、指定地域において効率的に消防活動を行うため、事前に計画を策定しておく必要がある。

これを指定地域に対する火災防ぎょ計画（警防計画）という。

第1 計画の策定要領

大規模火災となる要因は地域により異なることから、各地域の特性を分析し、様式1から5により地域ごとに計画を策定する。記入要領は別添を参照し、各様式は必要により消防本部において適宜変更して使用すること。

- ・様式1 目次
- ・様式2 警防計画説明書（その1）
- ・様式3 警防計画説明書（その2）
- ・様式4 付近図
- ・様式5 各隊行動計画（出動隊ごとに作成する。）

なお、計画策定の際には特に次に掲げる事項に留意して検討し、可能な限り様式に記入すること。

1 活動の重点

地形、道路状況、建物状況、水利状況を分析し、これらの地域特性を勘案した活動の重点を検討しておくこと。

2 延焼拡大防止対策

消防隊到着時の延焼範囲を、市街地火災延焼シミュレーションを活用する等して予測し、各隊の部署位置及び筒先配備に関する事項を具体的に検討し、計画しておくこと。

3 避難誘導対策等

延焼が広範囲となる場合を想定し、消防警戒区域の設定範囲、避難場所、避難勧告措置等について検討し、計画しておくこと。

4 応援要請

- (1) 必要な車両、資機材等の応援要請について検討し、計画しておくこと。
- (2) 速やかな応援要請について、糸魚川市大規模火災を踏まえた消防広域応援体制の強化について（平成29年7月31日付け消防広第266号）に基づき検討し、計画しておくこと。

5 消防水利

- (1) 消火栓は、共倒れにならないよう、管径や系統を勘案して指定すること。
- (2) 長時間の消火活動を考慮し、防火水槽等の有限水利を指定する場合は、給水（充水）

隊を計画しておくこと。

- (3) 必要口数を勘案し、簡易水槽などの仮設水利の設置、設置場所及び搬送要領を計画しておくこと。

また、協定締結している地元業者等に早期に水の搬送を依頼できるよう計画しておくこと。

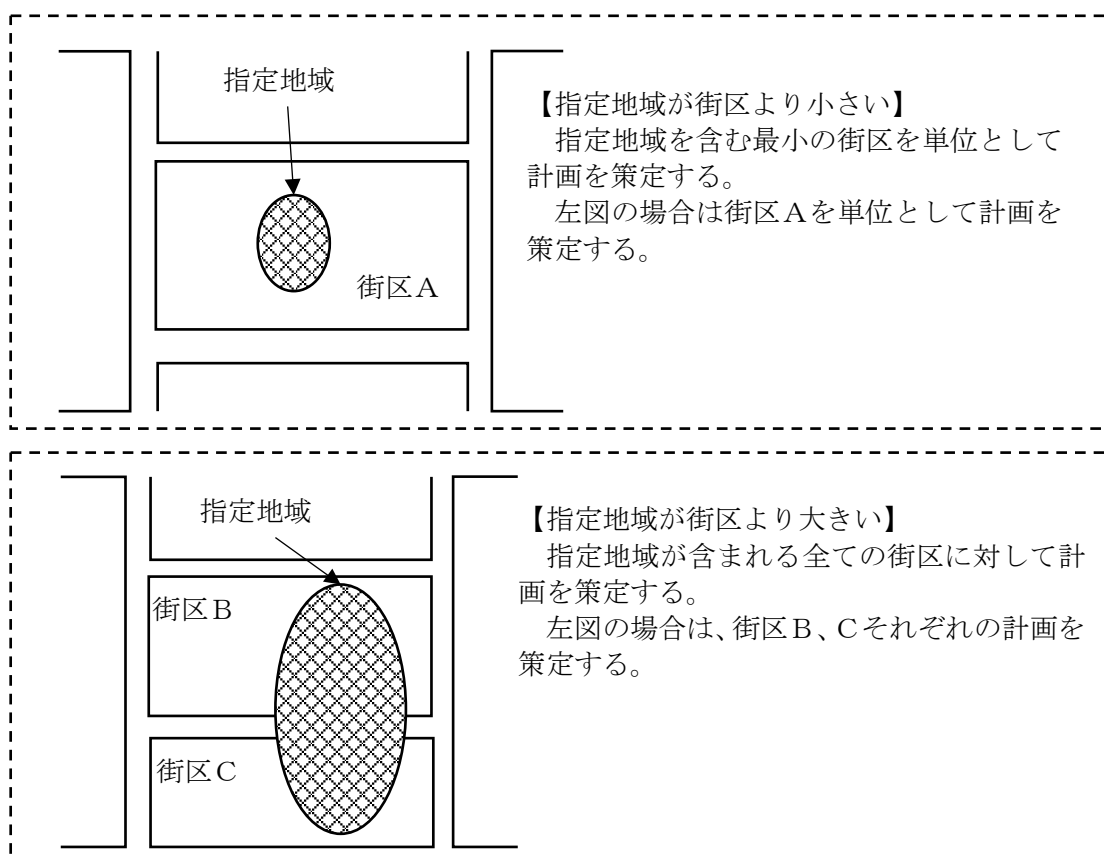
6 消防団との連携

管内の重要な消防力であることから、消防本部の実情に応じて、消防団の車両、可搬ポンプ等を勘案した計画を策定すること。

第2 計画策定上の留意事項

- 1 計画の策定単位は、原則として指定地域を勘案した街区単位（※）とする。
- 2 計画の策定単位面積が大きく、火点位置によって各隊の水利及び進入位置が異なる場合は、街区を分割して策定し、又は水利部署位置及び進入路等の指定は行わず、状況に応じた対応ができるよう計画する。
- 3 付近図には、ポンプ車及びホースカーの通行可否並びに街区内の建物状況（配置、構造等）がわかるよう、明示する。
- 4 道路、建物、水利等の状況と管内の消防力を勘案し、実態に即した計画を策定する。

※ 指定地域を勘案した街区単位の考え方



警防計画説明書 (その 1)

| | | 作成 (修正) 年月日 | | | 年 | | 月 | | 日 | |
|----------|----|----------------|---------|--------|------|----|--------|---|----|----------------|
| 指定地域警防計画 | ① | 消防署 | 地域名称 | ② | | | 地域No. | ③ | | |
| 地域町丁目 | ④ | | 建物棟数 | 耐火造 | ⑤ | 棟 | 世帯数 | ⑥ | 世帯 | |
| | | 防火造 | | 棟 | | 人口 | 人 | | | |
| 地域面積 | ⑦ | m ² | | 木造 | | 棟 | 予想焼失面積 | ⑨ | | m ² |
| 建ぺい率 | ⑧ | % | | 計 | | 棟 | 必要消防力 | ⑩ | | |
| 地域特性 | ⑪ | | | | | | | | | |
| 出場区分 | 隊名 | 水利 (指定・予定) | | 任務 | 活動概要 | | | | | |
| | | 種別 | 所在 (容量) | | | | | | | |
| 第一 | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | |
| | ⑫ | ⑬ | ⑭ | ⑮ | | | | | | |
| | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | |
| 第二 | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | |
| 消防団 | 団名 | 台数 | | 任務・水利等 | | | | | | |
| | ⑯ | ⑰ | ⑱ | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | |

【警防計画説明書1 記入要領】

| | |
|---|---|
| ① | 管轄する消防署名を記入する。 |
| ② | 地域の名称を記入する。 |
| ③ | 地域No. を記入する。 |
| ④ | 所在（地域）を記入する。 |
| ⑤ | 地域内の構造別の棟数を記入する。 |
| ⑥ | 地域内の世帯数、人口を記入する。 |
| ⑦ | 地域面積を記入する。 |
| ⑧ | 地域内の建ぺい率を記入する。 |
| ⑨ | 予想焼失面積を記入する。 |
| ⑩ | 包囲するために必要な隊数と口数を記入する。 |
| ⑪ | 地域の特性を記入する。 （例） 木造・防火造建築物が密集、道路狭隘で消防車両進入不能、住宅が多く、人命危険が高い、地域の南側が崖地のため、進入方向が限られる |
| ⑫ | 出動隊を記入する。 |
| ⑬ | ⑫の部署する予定水利を記入する。 種別：公設消火栓、防火水槽、自然水利など（例：消火栓100号、防火水槽200号） 所在：番地、号数（消防本部内でわかるように） 容量：防火水槽等の有限水利の場合はその容量を記載する。（例：40 t、100 t） |
| ⑭ | ⑫の主な任務を記入する。 （例）消火活動 |
| ⑮ | ⑫の活動概要を記入する。 （例）風横側から延焼方向に包囲部署して消火活動を行う。 |
| ⑯ | 当該地域に出動する消防団名（分団であれば分団名）を記入する。 |
| ⑰ | ⑯の消防ポンプ自動車の台数、積載車の台数、手引きポンプの台数をそれぞれ記入する。 |
| ⑱ | ⑯の予定水利や活動について記入する。 （例） ○○隊は、A川に部署し、防火水槽No. 100の充水活動を実施 ○○隊は、指揮本部の下命事項に基づく活動を実施 |

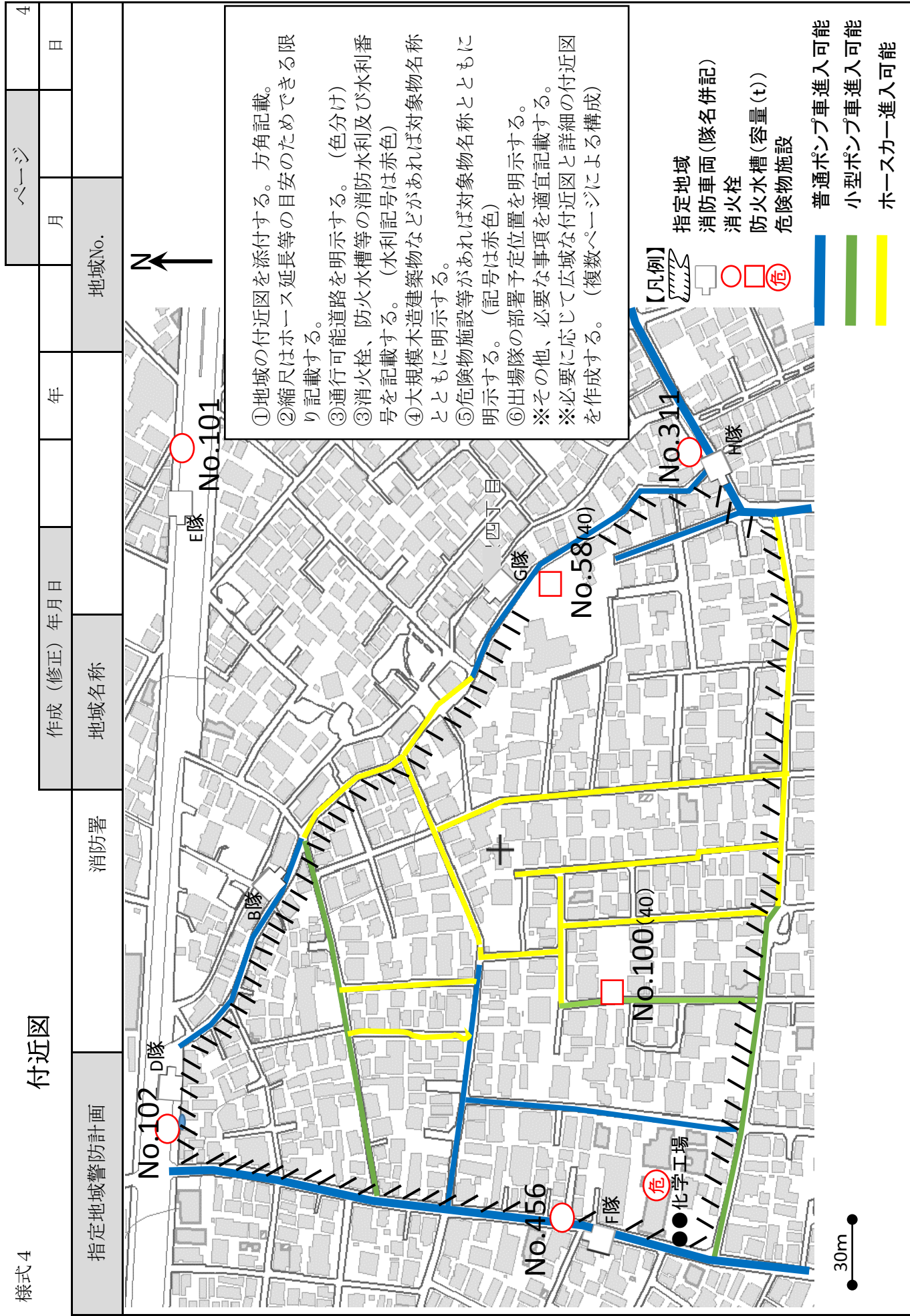
警防計画説明書（その2）

| | | | | | | |
|----------------|----|-----|------|---|-------|---|
| 指定地域警防計画 | ① | 消防署 | 地域名称 | ② | 地域No. | ③ |
| 項目 | 内容 | | | | | |
| 地 形 道路状況 | ④ | | | | | |
| 建物状況 | ⑤ | | | | | |
| 水利状況 | ⑥ | | | | | |
| 活動の重点 | ⑦ | | | | | |
| 救助・避難 誘導対策 | ⑧ | | | | | |
| 安全管理上の 留意事項 | ⑨ | | | | | |
| その他の 留意事項 | ⑩ | | | | | |

【警防計画説明書 2 記入要領】

| | |
|---|--|
| ① | 管轄する消防署名を記入する。 |
| ② | 地域の名称を記入する。 |
| ③ | 地域No. を記入する。 |
| ④ | <p>地形と道路状況の特性を記入する。</p> <p>【例】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地形は平坦であるが、南側から北側の〇〇通りに向かって緩やかに上る傾斜地となっている。 ・道路は東側を除き幅員が狭く、ポンプ車での進入は困難な地域である。西側は普通ポンプ車が途中まで進入できる。 ・道路は迷路状に入り組んでいることから、退路の確保に留意する。 ・北、東側が崖地のため、車両の進入は南側からの一方偏集となる。 |
| ⑤ | <p>建物状況の特性を記入する。</p> <p>【例】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・裸木造、木造、防火造の2階建ての専用住宅がほとんどを占めている。老朽化した建築物が混在する密集地域であることから延焼危険は極めて高い。 ・住宅が多く、高齢者が多く居住する地域である。 ・東側に化学工場（危険物施設）がある。 |
| ⑥ | <p>水利状況の特性を記入する。</p> <p>【例】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・消防水利が不足しているの地域である。 ・東側200mを流れる〇〇川からの遠距離送水を考慮する。 |
| ⑦ | <p>活動の重点を記入する。</p> <p>【例】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・風位、風速及び延焼状況により、飛火警戒隊を指定するとともに、具体的な警戒範囲を示す。 ・当該地域は地理水利の関係から車両での部署が一方向となることから筒先による火点を包囲する。 ・現場指揮本部は原則として〇〇公園に設置する。これによりがたい場合は、〇〇通りの安全な場所とする。状況により局面指揮所を設ける。 ・応援隊の集結場所は〇〇通りとし、集結した隊から具体的任務を付与する。 ・防火水槽への充水隊を指定し、継続的な消火活動を実施する。 |
| ⑧ | <p>救助及び避難誘導対策を記入する。</p> <p>【例】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・寝たきりのほか要援護者のいる世帯について、早期救助に当たる。 ・延焼方向の避難、救助を優先し、同時に避難路を確保する。 ・避難先は指定の〇〇小学校とし、延焼状況によっては避難勧告、避難指示を市町村と連携して実施する。 |
| ⑨ | <p>安全管理上必要な情報を記入する。</p> <p>【例】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・住民等から延焼拡大要員となるような危険物等の有無を確認する。 ・プロパンガスボンベが多数あることから早期除去を考慮する。 <p>プロパン納入業者連絡先 〇〇商会 電話番号</p> <ul style="list-style-type: none"> ・老朽建築物が多いことから、消火活動中、残火処理中の建物倒壊に留意する。 |
| ⑩ | その他の必要な事項について記入する。 |

付近図



行動計画説明書

| | | 作成(修正)年月日 | | | ページ | |
|----------|------|-----------|-------|---|-------|---|
| | | 年 | 月 | 日 | | |
| 指定地域警防計画 | ① | 消防署 | 地域名称 | ② | 地域No. | ③ |
| 部隊名 | ④ | | 地域町丁目 | ⑤ | | |
| 項目 | 内 容 | | | | | |
| 予定水利 | | 種別・名称 | 所在・目標 | | | |
| | 第1水利 | ⑥ | | | | |
| | 第2水利 | | | | | |
| | 第3水利 | | | | | |
| 任務 | ⑦ | | | | | |
| 行動 | ⑧ | | | | | |
| 備考 | ⑨ | | | | | |

【行動計画書 記入要領】

| | |
|---|------------------------------------|
| ① | 管轄する消防署名を記入する。 |
| ② | 地域の名称を記入する。 |
| ③ | 地域No. を記入する。 |
| ④ | 部隊名を記入する。 |
| ⑤ | 所在（地域）を記入する。 |
| ⑥ | 予定水利の種別、番号を記入する。（第1水利は警防計画説明書⑬と同じ） |
| ⑦ | 主な任務を記入する。（警防計画説明書⑭と同じ） |
| ⑧ | 部署位置からの隊の具体的な行動を記入する。 |
| ⑨ | その他必要な事項を記載する。 |

目次

| | | |
|-----------|---|-----|
| ページ | | 1 |
| 作成（修正）年月日 | 年 | 月 日 |

| | | |
|----------|-----|--|
| 指定地域警防計画 | 消防署 | |
| 地域名称 | | |
| 地域No. | | |
| 地域町丁目 | | |

| 内容 | ページ |
|--------------|-----|
| 目次 | 1 |
| 警防計画説明書（その1） | 2 |
| 警防計画説明書（その2） | 3 |
| 付近図 | 4 |
| 各隊行動計画 | 5 ～ |

警防計画説明書 (その1)

| | | | | | | |
|-------------|--|---|--|---|--|---|
| 作成 (修正) 年月日 | | 年 | | 月 | | 日 |
|-------------|--|---|--|---|--|---|

| | | | | | | |
|----------|----------------|------|-----|-------|--------|----------------|
| 指定地域警防計画 | 消防署 | 地域名称 | | 地域No. | | |
| 地域町丁目 | | 建物棟数 | 耐火造 | 棟 | 世帯数 | 世帯 |
| 地域面積 | m ² | | 防火造 | 棟 | 人口 | 人 |
| 建ぺい率 | % | | 木造 | 棟 | 予想焼失面積 | m ² |
| 地域特性 | | | 計 | 棟 | 必要消防力 | 隊 |

| 出場区分 | 隊名 | 水利 (指定・予定) | | 任務 | 活動概要 |
|------|----|------------|---------|----|------|
| | | 種別 | 所在 (容量) | | |
| 第一 | | | () | | |
| | | | () | | |
| | | | () | | |
| | | | () | | |
| | | | () | | |
| | | | () | | |
| | | | () | | |
| | | | () | | |
| 第二 | | | () | | |
| | | | () | | |
| | | | () | | |
| | | | () | | |
| | | | () | | |

| 消防団 | 分団名 | 台数 | 任務・水利等 |
|-----|-----|----|--------|
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |

警防計画説明書 (その2)

作成 (修正) 年月日

年

月

日

| 指定地域警防計画 | 消防署 | 地域名称 | 地域No. |
|----------------|-----|------|-------|
| 項目 | 内容 | | |
| 地 形 道路状況 | | | |
| 建物状況 | | | |
| 水利状況 | | | |
| 活動の重点 | | | |
| 救助・避難 誘導対策 | | | |
| 安全管理上の 留意事項 | | | |
| その他の 留意事項 | | | |

付近図

| | |
|-----|---|
| ページ | 4 |
| 月 | 日 |

| | |
|-----------|---|
| 作成（修正）年月日 | 年 |
|-----------|---|

| | | | |
|----------|-----|------|-------|
| 指定地域警防計画 | 消防署 | 地域名称 | 地域No. |
|----------|-----|------|-------|

行動計画説明書

| | | | | | | | | | |
|----------|--|-------|-----------|------|-------|-------|-----|--|--|
| | | | | | | | ページ | | |
| | | | 作成（修正）年月日 | | 年 | 月 | 日 | | |
| 指定地域警防計画 | | 消防署 | | 地域名称 | | 地域No. | | | |
| 部隊名 | | | | | 地域町丁目 | | | | |
| 項目 | | 内 容 | | | | | | | |
| 予定水利 | | 種別・名称 | | | 所在・目標 | | | | |
| | | 第1 水利 | | | | | | | |
| | | 第2 水利 | | | | | | | |
| | | 第3 水利 | | | | | | | |
| 任務 | | | | | | | | | |
| 行動 | | | | | | | | | |
| 備考 | | | | | | | | | |